

被服構成実習指導上の工夫

——ジャケット製作について——

今 井 裕 子

Useful Device for Teaching Practical in Clothing Construction

——Making a Jacket——

Yuuko IMAI

Key words：ジャケット製作 making jacket, 被服構成 Clothing construction, 方形裁ち rectangular cutting

1. はじめに

平成18年度福岡教育大学から後期実習科目「ファッションクラフト」の非常勤講師として要請があった。

受講学生の福岡教育大学での既習技術は、エプロン、シャツ、ブラウスと裏無しパンツであり、主として綿素材を扱っているため、当該実習科目での作品はスーツやコートに発展させることができる裏つきジャケットで、素材は表地ウール、裏地キュプラに設定した。

小学校や中学・高等学校の教員養成課程の学生に対して、数多くの素材に触れたり縫製したりする経験が、将来教師として教壇に立つ時生かされると考えた。

被服構成実習の前段階技術として、ピンワーク基礎とパターンメイキング基礎は必要と考え、授業内容に加えた。被服実習は依頼された科目のみで終了するので、時間内での指導上の工夫をする必要に迫られた。

そこで、実習時間が限られた中で教育目的の達成ができるように、授業運営と被服製作内容を工夫した成果を報告する。

2. 授業内容

2-1 授業内容の構成方針

(1) 被服構成学内容として身につけさせたい知識

- ①平面製図に加えて立体的裁断手法の提案
- ②新しい裁断手法「方形裁ち」の提案

③ウール、キュプラ、接着芯、接着テープの素材知識

(2) 被服構成学内容として身につけさせたい技術

- ①布扱い技術：ピンワーク
- ②縫製技術：玉縁ボタンホール、裏地縫製技術
- ③造形技術：外袖のくせとり、ラベルのくせとりと伸び止め、袖山のいせこみ、衿の伸び止め

2-2 授業計画

[授業の目標]

被服は人間の生活と切り離せないアイテムで、生活と結びつきながら、人間を装飾してきた。ここでは既習の被服製作テクニックを基礎として、応用的なテクニックの習得を目標とし、実用的なジャケットを製作する。スカートやパンツを共生地で製作すれば、スーツとして着用可能であり、重宝なものとなるので、実力のある学生はスーツのジャケットを製作しても良い。

[授業内容]

- 1. 授業概要とスケジュール説明
 - 2. アパレルデザインとパターン構成
 - 3. ピンワークの基礎と立体裁断について
 - 4. ～5. パターンメイキングの基礎
 - 6. ～14. ジャケットの製作
 - 15. 作品の評価
- [教科書] 八角節子著「縫い方の基礎の基礎」文化出

版局

〔成績評価〕 出席状況, レポート, 課題作品

〔オフィスアワー〕

非常勤講師のため, 時間設定はしていません。連絡方法等は第1回授業時に連絡する。

〔授業時間外の学習について〕

この授業科目の単位を取得するため, 授業とは別に毎時90分程度の自習を行うこと。講義後の実習で, 予定時間内で終わらないものは, 課題として翌日までに終了しておくこと。

2-3 ジャケットのデザイン

型紙: 既製型紙利用 (製図も可)

ボタンホール: 玉縁ボタンホール

ラベル: きざみのあるもの (ピークドラベルは不可)

袖: 2枚袖

衿: 付いていること

裏: 総裏付

ポケット: パッチポケットA, 箱ポケット, なくても構わない

素材はウール織地のこと (編地は不可で薄地から中肉のもの)

2-4 対象学生

学部3年生15名

2-5 実施日

実習15週分は後期集中とし, 下記の日程で行った。

平成18年12月23日 (土), 24日 (日)

平成19年1月6日 (土)~8日 (月)

3. 授業運営の工夫

(1) 個人別でなく, 集団を前提とした指導をする。

(2) 1コマ135分間×15回分の実習授業内容を, 90分×22.5講分として組み立てる。

(3) ボタンホール練習の時期や印つけ, 接着芯貼りの順序入れ替えの工夫をして, 製作時間の短縮を図る。

授業のスケジュールは次の通りとした。

12月23日1講 ガイダンスとピンワークについて

12月23日2講 ピンワーク実習

12月23日3講 デザインからの型紙作成について

12月23日4講 採寸とジャケット生地 (表地・裏地・芯地) および布の見積もりについて

12月24日5講 表裏の区別と地直し (1)

12月24日6講 地直し (2)

12月24日7講 布の裁断・接着芯貼り (1)

12月24日8講 布の裁断・接着芯貼り (2)

12月24日9講 印つけ

1月6日10講 ボタンホール練習

1月6日11講 ボタンホール作成

1月6日12講 伸び止テープ貼り

1月6日13講 前身頃接着テープ貼り

1月6日14講 裏布の裁断と印つけ

1月7日15講 裏布の縫い合わせ

1月7日16講 肩合わせ

1月7日17講 衿づくり

1月7日18講 見返し, 衿付け

1月7日19講 袖作り

1月8日20講 袖付け

1月8日21講 ボタンホール完成

1月8日22講 ボタン付けと仕上げアイロン

1月8日23講 着装

4. 製作内容の工夫

4-1 採寸について

(1) 一般的に被服製作時には, 着用対象者の身体にフィットさせるため, 各部位寸法を計測する。

ジャケットの場合, バスト, ウエスト, ミドルヒップ, ヒップ, 背丈, 着丈, 腰丈, 肩幅, 背肩幅, 腕付け根まわりおよび袖丈の寸法の計測が必要である。

(2) 検討内容: 採寸箇所の精選

ルーズフィットなジャケットは着用者の肩で固定され身体をゆったりとカバーしている。今回は体型把握と型紙選択に最小限必要なバスト, ウエストおよびヒップの周径と袖丈を採寸した。

なお, ジャケットの袖丈は, 流行によって変化しており, 着用者にとってこだわるところである。身体の腕の長さ, すなわち肩峰点から橈骨点を通り, 橈骨茎突点までの上腕長と前腕長を採寸し, 袖丈の基本とした上で, 着用者の好みの袖丈を決定した。

人体計測に関する項目や採寸方法は, 履修済みだったので, 今回の授業では割愛した。

4-2 型紙について

(1) 一般に型紙を選択する場合は, 採寸値と型紙の寸法を比較し, まずバスト寸法を基準にして着用者の体型に近い型紙を選択する。次に型紙のバスト, ウエ

スト、ヒップのライン上で着用者に最適なサイズポイントを選択し、3者のポイント間を通るなどらかなジャケットラインを新たに引き整えていく。

(2) 検討内容：型紙補正箇所の限定

型紙ラインの引き直しは、シルエットを崩す恐れがある。また、ルーズフィットなジャケットでは、着用者のバスト寸法が型紙のバストサイズと合えば、着用者の体型をカバーできる。今回は自分の好みに合ったジャケットで、市販の型紙をそのまま使用することにした。

袖丈は着用者の手くるぶしまで届いているのが基本であるため、既製型紙寸法が合わない場合は、型紙補正する必要がある。この袖丈寸法の増減は、身頃の型紙修正の必要がない上、袖型紙修正も容易である。今回は、個人の体型や好みに合わせて袖丈を変更してもシルエットにあまり影響を及ぼさないと判断し、製作者の希望袖丈に修正した。

4-3 型紙配置と方形裁ちについて

(1) 一般に型紙の配置は、前後身頃、衿、袖など各パーツの種類と枚数、表裏や左右の区別、布地の方向、縫い代分量、布幅と布の長さ、毛並みの方向、追いかかけ柄などの柄合わせなど、様々な点に留意して行う。間違った型紙配置のまま裁断すると、布を買い足したり、学生の製作意欲をそぐことになるため、特に注意が必要な作業箇所である。

基本的な型紙配置・裁断・印つけの手順は、次のとおりである。

- ①ジャケット型紙の布目線を生地を経方向に合わせる。
- ②縫い代分量を加味しながら、布使用量を少なくす

るように、型紙の面積の大きい順に配置し、面積の小さい型紙を大きいものの間に入れたり、順番を入れ替えたりして、工夫する。

③型紙を布に待ち針で固定する。

④型紙の回りに縫い代線の印をつけ、裁断する。

⑤型紙を布に待ち針でつけたまま、出来上がり線にしつけ糸2本取りで「切りじつけ」をする。

⑥必要な箇所に接着芯を張り補強する。

(2) 検討内容：「方形裁ち」の提案

布の裁ち落としを少なくし、しかも布使用量を少なくするなどの裁断方法は、生産コスト面に加えて環境保全面にも配慮していることを指導できる。しかし、パーツが多い場合、製作経験の少ない学生では型紙配置における試行錯誤は時間がかかる上、布目がずれやすい。さらに、今回は限られた時間内で多人数の実習生に間違いなく布を裁断させることを優先させ、「粗裁ち」方法を取り入れた。

通常の粗裁ちは、余分な縫い代をつけて裁断することで、パーツごとに必要な縫い代で正確に裁断する前に、布の上にパターンを配置し、個々のパターンごとに余分な縫い代をつけて大まかに切り分けることをいう。

今回は粗裁ち方法を改良した「方形裁ち」を提案する。これは、型紙の最大縦方向長さと最大横方向長さに縫い代を加えた長方形を設定し、経と緯の布目に沿って裁断させるものである。

布は一般にバイアス方向は経や緯の布方向に比べ伸びやすい性質を持ち、曲線に裁断した裁ち目は特に変形しやすい。複数の学生が実習台を共用しているため、別学生の布の裁断に際し、裁断終了した布を移動させており、袖ぐりや衿ぐり、脇線のようなカーブに沿っ

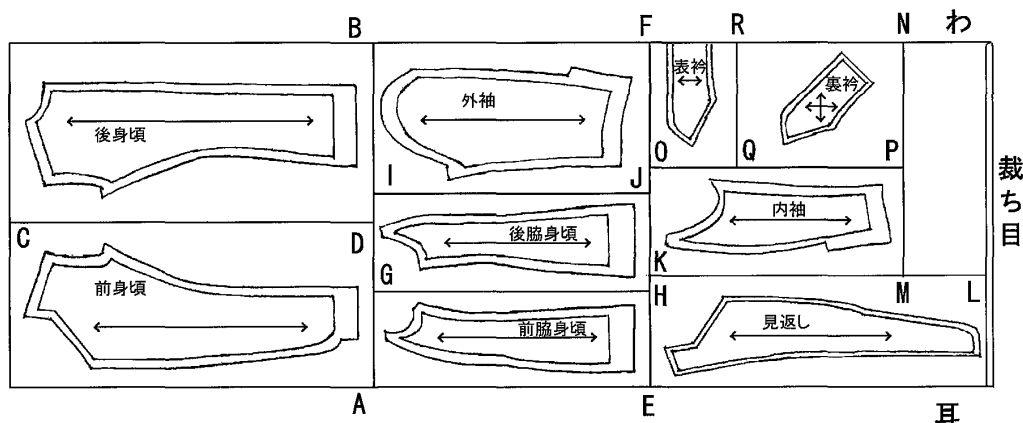


図1 ジャケット表布の型紙配置と「方形裁ち」線

て裁断した場合、布は歪みやすい。筆者が提案する「方形裁ち」は、特に経と緯方向のみの粗裁ちで曲線の裁断がないので、布の持ち運びによる布変形はほとんどないという長所がある。もし、布地がゆがんだ場合も布目を通して戻すことが可能である。

ジャケットのサイズやデザインで型紙の配置場所など異なってくるので、型紙の配置例を図1に挙げた。その方形裁ちの手順は次の通りである。

- ①布の地直しをした後、内側が表（中表）になるように布幅を二つ折りにし、型紙の布目線を布の経方向に合わせ、裾線や袖口線が同一線（緯糸）上に並ぶようにした。
- ②横に並べた型紙の間隔は、型紙に縫い代を含めた面積を多めに想定し、すべての型紙を配置した。
- ③図1のように、A－B線の緯の布目に沿って裁断し、次いでC－D線を裁断し、型紙1枚に対して前身頃部分では長方形の布2枚と後身頃部分の長方形の布1枚裁ちだした。
- ④経の布目線と平行のE－F線で裁断後、緯の布目に沿って経布目線と平行のG－H、I－J線で裁断し、前脇身頃部分、後脇身頃部分、大袖部分の布を方形裁ちした。
- ⑤経の布目線と平行のK－L線で裁断し、緯の布目に沿って見返し部分を方形裁ちした。
- ⑥緯の布目に沿ってM－N線を裁断し、経の布目線と平行のO－P線で裁断し、小袖部分を裁ちだした。
- ⑦緯の布目に沿ってQ－R線を裁断し、表衿部分と裏衿部分を方形裁ちした。

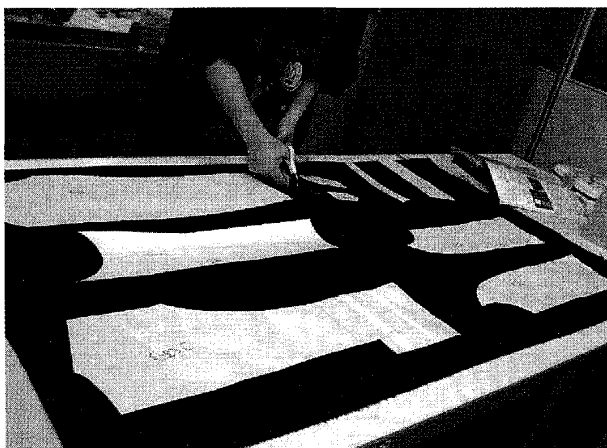


写真1 学生の「方形裁ち」作業風景

4-4 印つけと接着芯貼りについて

(1) 一般的にウール素材の場合、印つけは切りじつけを行い、基本的な工程は、次の通りである。

- ①中表のまま出来上がり線の上に、切りじつけをする。
- ②合印や折れ山線の上に、切りじつけをする。
- ③接着芯は、型紙どおり裁断し、見返し布と裏衿の布裏面に全面に貼り、前身頃、脇身頃、および後身頃は必要に応じて布裏面に接着芯を貼る。

(2) 検討内容：印つけ手法と芯貼り時期

今回は、時間を要する「切りじつけ」の使用箇所の削減および接着芯の貼り方の工夫を、次のように行った。

- ①方形粗裁ちした布裏面の中央に、布方向を合わせて型紙を配置した。
 - ②見返し布裏面の接着芯は全面接着とし、方形裁ちした布と同面積の接着芯を貼った。
 - ③前身頃、脇身頃と後身頃の接着芯は部分接着とし、裾と袖ぐりの周りにのみ接着芯を貼った。
 - ④接着芯を貼付後、型紙を再び配置し、チャコで出来上がり線と縫い代線を描いた。
 - ⑤縫い代線どおりに裁断した。
 - ⑥印が消えることを考え、角や合印には「切りじつけ」をし、折れ山線には「通しじつけ」を行った。
- 工程④で、印つけを「切りじつけ」から「チャコ」に替えることにより、作業時間の短縮になった。また、切りじつけ糸が接着芯に接着することを防ぐことができた。作品完成時にしつけ糸を取り除くのだが、接着芯に接着されている切りじつけ糸をほぐし取ることは意外と時間がかかる。今回はチャコを使うことができるので、このしつけ糸除去の手間がなくなった。

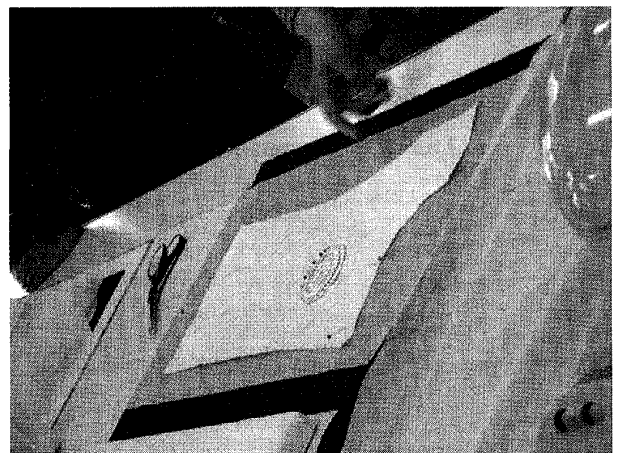


写真2 表布裏面に貼った接着芯の上からチャコで印つけ作業風景

さらに、方形裁ち後すぐに接着芯を貼らせることにより、布を持ち歩くことなく一連の作業をさせたため、裁断による布の変形を極力抑えることができた。

4-5 ボタンホールについて

(1) 一般的には、玉縁ボタンホール製作工程に入った段階で、別布で練習させ習得できた後、方法を忘れないうちにボタンホールを作らせることが多い。

(2) 検討内容：玉縁ボタンホール制作練習時期

玉縁ボタンホール製作の練習は、縫製工程に入る前の印つけが終了した段階で、全員一斉に指導することにした。

デザインはある範囲で指定しているが、中にはダブルブレスト・肩章つきショートピーコートで、玉縁ボタンホール製作までに、付属品を完成させなければならないデザインを選んだ学生もいた。今回は、各自のデザインによって作業内容が異なって縫製作業進度に差が出てくる前段階に玉縁ボタンホール練習を設定したので、全員足並みがそろって指導できた。

また、方形粗裁ちにより発生した端切れを玉縁ボタンホール練習布として活用する工夫もした。

4-6 縫合時の待ち針について

(1) 一般工程は次の通りである。

- ①縫合箇所は中表に合わせ、印と印を待ち針で留め、しつけをする。
- ②しつけ通りに縫製後、ミシン糸端の始末をして、しつけ糸をとる。
- ③縫合箇所にアイロンをかけ、縫い代を割る。

(2) 検討内容：待ち張り打ち手法

しつけをかける箇所を少なくして、時間を省く工夫をするため、待ち針の二段階打ち¹⁾により、直線箇所はしつけをすることなくミシン縫いができる方法を指導する。

5. ま と め

限られた実習時間内でジャケットを完成させ、被服

構成学上の知識と技術を身に付けさせるために、次の点を工夫した。

(1) 授業運営の工夫

①ボタンホール製作練習の指導時期を、ジャケット縫製作業直前に設定した。

②印つけと接着芯貼りの製作順序を組み替えた。

(2) 製作内容の工夫

①採寸箇所を体型把握と型紙選択に必要なバスト、ウエスト、ヒップ、袖丈に限定。

②型紙補正箇所を袖丈のみに限定。

③待ち針打ち手法として「二段階打ち」の指導

(3) ジャケットパーツの型紙配置後の新しい裁断手法として、「方形裁ち」の提案

これらの工夫により、ジャケット製作の効率が上がった。特に「方形裁ち」の提案と、この作業と同時に接着芯貼りを行ったことは製作時間短縮だけでなく、布の変形も少なくできるメリットがあった。

なお、縫製等では個人差が多く、時間を要した。布素材も、布地が厚さ2 mm以上のフラノや、全面接着の必要な織密度の低いツイードを持参した学生がいた。扱い易い布地購入指示の出し方や、1つの型紙を数人で共有することが作業の効率上不都合であることを説明するなど、指導上の工夫が今後の課題である。

今回行った被服製作授業上の工夫や課題は、本大学の学生指導に還元できるものになった。

謝 辞

本報文作成に当たり、授業記録や学生の作業風景撮影にご尽力いただいた福岡教育大学長山芳子教授に感謝いたします。

引 用 文 献

- 1) 田中美貴, 村上温子, 今井裕子: 制作意欲を高める被服教材の提案, 広島文化短期大学紀要, 32, 7-12 (1999)

Summary

For teaching a clothes making class in practice, I devised some instruction planning for subjects and steps of making a jacket.

1. Instruction planning: Making buttonholes was practiced prior to the sewing step. Fusible interlinings were bonded to the rectangular fabrics before marking the shapes of the pattern pieces onto a fabric.
2. Body measurements were limited to the most necessary places; bust/chest, waist and hip measurement were for choosing the correct size pattern, and sleeve-length measurement was for suiting one's taste. 'Two-step pinbasting' as the pinbaste technique was instructed.
3. New method, 'rectangular cutting' was developed for cutting cloth after laying out the jacket pattern pieces.

These teaching instructions were effective to save times and to reduce miss conduction in the jacket-making process.